

第6章 まとめ

第1節 好事例の分類・整理

前章で取り上げた好事例を、取り組み類型別に分類すると、概ね以下のとおりに整理することができる(図表 - 1も参照)。

(1) エンジニアリング的なデータに基づいた取り組みを実施している例

【事例1】「遮熱塗装を用いた歩道のカラー舗装」(神奈川県湯河原町)は、町内の葬儀社が会葬者の暑さ予防対策として遮熱舗装を利用していたことにヒントを得て、通学路部分を遮熱塗装によってカラー舗装にした例である。

【事例5】「スクールゾーン路面表示」(栃木県小山市)は、民間企業の持つナビゲーション・データを購入して、急ブレーキ頻度の高い場所を特定した上で実施した事業である。

(2) 予め人が集まりやすい場所や機会を利用してイベント形式で、交通安全意識を高めるための事業を実施している例

【事例7】「三世代で楽しく学ぶ安全・安心教室」(青森県)は、クリスマス向けイベントに連続する形で実施している。

【事例18】「安全・安心ふれ愛フェア」(愛媛県)は、県内最大のショッピングモールを開催場所としている。

(3) 保護者や教師の意識向上にも焦点を当てた事業となっている例

【事例2】「安全安心通学路対策事業」(埼玉県川越市)は小中学校職員全員が生徒の目線を取り入れて危険箇所を抽出した事例である。

【事例6】「地域巡回・パトロール活動の強化」(長野県岡谷市)は、地域住民が声がけをおこなうことにより、子どもの交通安全や防犯に結び付けようとする取り組みである。

【事例8】「親子自転車教室」(山形県三川町)は、子どもへの正しい指導をできるようにするため、保護者も参加している取り組み事例である。

【事例9】「交通安全教育モデル事業」(千葉県)では児童・生徒だけではなく教職員研修もメニューに取り入れている。

【事例10】区立保育園におけるげんきっ子トラフィックスクール(東京都板橋区)では、園児の交通安全意識の向上のためには保護者の意識も高めていく必要があるとの認識から、保護者にもなるべく本トラフィックスクールに参加してもらうようにしている。

【事例11】「交通安全教室」(福井県小浜市)では、生徒を対象とした交通安全教室実施後に、担当教員に生徒の反応や改善点等を反省文として提出させ、交通安全指導員にフィードバックしている。

【事例 15】「ももたろうクラブ」(岡山県井原市)は子どもだけでなく、保護者の意識改革にも成果を挙げている事業である。

(4) 子ども自身に主体となってもら事業を実施している例

【事例 3】安全マップの作成(愛知県日進市)では、小学4年生がPTAや交通・防犯ボランティアと一緒に危険箇所をマップに落とし込むなど、マップづくりに直接関与している。

【事例 12】自転車運転免許証交付事業(長野県松本市)では、子どもが自転車運転免許証を受け取ることで交通安全に対する意識が高まり、責任ある交通行動の実施に寄与しているとされている。

【事例 14】「学会や企業との連携による交通安全プログラムの開発」(三重県鈴鹿市)では、自治体が協力の事業の中で、生徒自身によるグループワークを重視した取り組みとなっている。

【事例 16】「シートベルト・チャイルドシート着用指導」(北海道留萌市)では、安全面を確保した上で、園児自らがドライバーに働きかけを行っている事業である。

【事例 19】「学校と家庭の交通安全リーダー証交付事業」(熊本県)では、リーダー証を交付された小学6年生が下級生に対する交通安全リーダーの役割を果たしている。

(5) 交通安全だけでなく防犯や防災も兼ねた総合的な「安全・安心」取り組みとなっている例

【事例 3】安全マップの作成(愛知県日進市)、【事例 4】「通学路安心事業」(福岡県福岡市)や【事例 6】「地域巡回・パトロール活動の強化」(長野県岡谷市)、【事例 10】区立保育園におけるげんきっ子トラフィックスクール(東京都板橋区)、【事例 18】「安全・安心ふれ愛フェア」(愛媛県)は、交通安全対策だけでなく、防犯(や場合によっては防災)も目的として、市民や県民のより広範な関心を取り入れた事業の例である。

(6) 地域住民に愛されるキャラクターを用いた事業を実施している例

【事例 17】「オリジナル反射材の作成・配布」富山県滑川市は、市の特産品であるホタルイカをモチーフとした、既に市民の間で定着しているキャラクターを用いて、地元新聞に取り上げてもらったこと等により市民への周知が高まった例である。

(7) 予算ゼロでも実施できる事業となっている

【事例 15】「ももたろうクラブ」(岡山県井原市)は、長年にわたる保護者の協力の下、予算ゼロで実施している事業である。

【事例 16】「シートベルト・チャイルドシート着用指導」(北海道留萌市)も、保育園や幼稚園の協力の下、予算をかけないで実施している事業である。

【事例 18】「安全・安心ふれ愛フェア」(愛媛県)は連携機関の費用負担により、予算ゼロで大規模に実施している事業である。

(8) 民間企業・民間団体との連携を積極的に取り入れた事業となっている

【事例 7】「三世代で楽しく学ぶ安全・安心教室」(青森県)は、集客ノウハウを生かすため、企画を広告代理店や地元の劇団が担当している。

【事例 13】「実践型交通安全教室」(長野県塩尻市)は、警察から安全確認を取りながら、地元の運送会社の協力を得てスケアード・ストレイト手法を実施している。

【事例 20】小学校周辺での自転車走行指導帯の設置(石川県金沢市)では、地元の NGO 団体である「地球の友・金沢」と金沢市が中心となって実施している。

図表 - 1 好事例の分類・整理

| 区分 | 事例 | (1) エンジニアリング的なデータに基づいた取り組み | (2) 予め人が集まりやすい場所や機会を利用してイベント形式で実施 | (3) 保護者や教師の意識向上にも焦点を当てた事業 | (4) 子ども自身に主体となってもらった事業 | (5) 防犯や防災も兼ねた総合的な「安全・安心」取り組み | (6) 地域住民に愛されるキャラクターを用いた事業 | (7) 予算ゼロでも実施できる事業 | (8) 民間企業・民間団体との連携を積極的に取り入れた事業 |
|---------------------------------------|--|----------------------------|-----------------------------------|---------------------------|------------------------|------------------------------|---------------------------|-------------------|-------------------------------|
| 1. 歩道の整備 | | | | | | | | | |
| | 【事例1】遮熱塗装を用いた歩道のカラー舗装(神奈川県湯河原町) | | | | | | | | |
| 2. 交通環境の点検 | | | | | | | | | |
| | 【事例2】安全安心通学路対策事業(埼玉県川越市) | | | | | | | | |
| | 【事例3】安全マップの作成(愛知県日進市) | | | | | | | | |
| | 【事例4】通学路安全安心事業(福岡県福岡市) | | | | | | | | |
| 3. スクールゾーン・通学路等の設定 | | | | | | | | | |
| | 【事例5】スクールゾーン路面表示(栃木県小山市) | | | | | | | | |
| 4. 地域巡回・パトロール活動の強化 | | | | | | | | | |
| | 【事例6】地域巡回・パトロール活動の強化(長野県岡谷市) | | | | | | | | |
| 5. 交通安全教室・講習会の開催 | | | | | | | | | |
| | 【事例7】三世代で楽しく学ぶ安全・安心教室開催事業(青森県) | | | | | | | | |
| | 【事例8】親子自転車教室(山形県三川町) | | | | | | | | |
| | 【事例9】交通安全教育モデル事業(千葉県) | | | | | | | | |
| | 【事例10】区立保育園におけるげんきっ子トラフィックスクール(東京都板橋区) | | | | | | | | |
| | 【事例11】交通安全教室(福井県小浜市) | | | | | | | | |
| | 【事例12】自転車運転免許証交付事業(長野県松本市) | | | | | | | | |
| | 【事例13】実践型交通安全教室(長野県塩尻市) | | | | | | | | |
| | 【事例14】学会や企業との連携による交通安全プログラムの開発(三重県鈴鹿市) | | | | | | | | |
| | 【事例15】ももたろうクラブ(岡山県井原市) | | | | | | | | |
| 6. 交通安全運動の実施 | | | | | | | | | |
| | 【事例16】シートベルト・チャイルドシート着用指導(北海道留萌市) | | | | | | | | |
| 7. 交通安全教育刊行物・資材・交通安全用具の配布や購入支援 | | | | | | | | | |
| | 【事例17】オリジナル反射材の作成・配布(富山県滑川市) | | | | | | | | |
| 8. その他交通安全教育・広報活動の実施 | | | | | | | | | |
| | 【事例18】安全・安心ふれ愛フェア事業(愛媛県) | | | | | | | | |
| | 【事例19】学校と家庭の交通安全リーダー証交付事業(熊本県) | | | | | | | | |
| 9. その他 | | | | | | | | | |
| | 【事例20】小学校周辺での自転車走行指導帯の設置(石川県金沢市) | | | | | | | | |

第2節 想定していた成果・効果が得られなかった事例と好事例との比較

好事例の分類・整理と「第4章 想定していた成果・効果が得られなかった取り組み」の内容を比較すると、以下のとおり、想定していた成果・効果が得られなかった要因や課題に対応する形で好事例が展開されているケースが多いことが分かる。

地方自治体の交通環境は千差万別であり、各自治体の抱えている課題に一概に好事例が当てはまるわけではないが、少なくとも好事例と呼べる施策では、課題を乗り越えられるための工夫がなされているようである。

第5章で紹介した好事例の取り組みが、「第4章 想定していた成果・効果が得られなかった取り組み」で類型化した要因のすべてをカバーできているわけではないが、好事例の取り組みによっていくつかの要因は克服できると考えられる。

例えば、「第4章 想定していた成果・効果が得られなかった取り組み」のうち、「(1) 関係機関との連携・協力体制の構築に問題があった取り組み」の「要因：学校・家庭との連絡調整不足」に対しては、「第5章 子どもの交通安全確保策に関する好事例」のうち、人が集まりやすい場所や機会を利用した事例や、保護者や教師も巻き込んだ取り組み、子ども自身に主体性をもたせる取り組み等、以下の事例が参考になると考えられる。

(2) 予め人が集まりやすい場所や機会を利用してイベント形式で実施

【事例7】【事例18】

(3) 保護者や教師の意識向上にも焦点を当てた事業

【事例2】【事例8】【事例9】【事例10】【事例11】【事例15】

(4) 子ども自身に主体となってもらった事業

【事例3】【事例12】【事例14】【事例16】【事例19】

(5) 防犯や防災も兼ねた総合的な「安全・安心」取り組み

【事例3】【事例4】【事例6】【事例10】【事例18】

同様に、「要因：地域の状況把握不十分」に対しては、地域の民間事業者という資源を積極的に活用した以下の取り組み等が参考になるであろう。

(8) 民間企業・民間団体との連携を積極的に取り入れた事業

【事例7】【事例13】【事例20】

以下、同様に、第4章での「想定していた成果・効果が得られなかった要因」に対して、第5章の好事例でどのようにカバーできるかを対応させると、概ね図表-2のように整理できる。今後の施策検討に生かして頂きたい。

図表 - 2 想定していた成果・効果が得られなかった取り組みの要因と、それに対応する好事例での参考となる取り組み

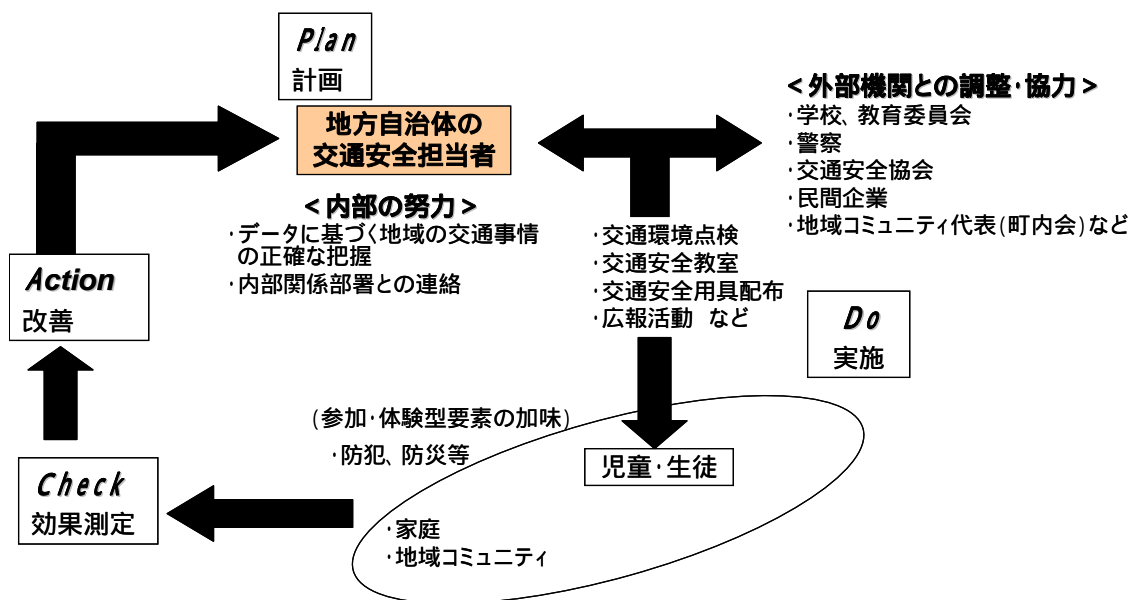
| 想定していた成果が得られなかった取り組みの要因(第4章) | | 好事例での参考となる取り組み(第5章) | |
|--|---|---|--|
| (1) 関係機関との連携・協力体制の構築に問題があった取り組み | | | |
| 要因 : 学校・家庭との連絡調整不足 (自治体A、B、C、D、E) | ↔ | (2) 予め人が集まりやすい場所や機会を利用してイベント形式で実施 【事例7】、【事例18】 | |
| | | (3) 保護者や教師の意識向上にも焦点を当てた事業 【事例2】、【事例6】、【事例8】、【事例9】、【事例10】、【事例11】、【事例15】 | |
| | | (4) 子ども自身に主体となってもらった事業 【事例3】、【事例12】、【事例14】、【事例16】、【事例19】 | |
| | | (5) 防犯や防災も兼ねた総合的な「安全・安心」取り組み 【事例3】、【事例4】、【事例6】、【事例10】、【事例18】 | |
| 要因 : 地域の状況把握不十分 (自治体F、G、H、I、J) | ↔ | (8) 民間企業・民間団体との連携を積極的に取り入れた事業 【事例7】、【事例13】、【事例20】 | |
| 要因 : 予算や実施計画上の問題 (自治体K、L) | ↔ | (7) 予算ゼロでも実施できる事業 【事例15】、【事例16】、【事例18】 | |
| (2) 配布物の実用性に問題があった取り組み | | | |
| 要因 : 説明不足 (自治体M、N) | ↔ | - | |
| 要因 : デザイン上の問題 (自治体O、P、Q、R) | ↔ | (6) 地域住民に愛されるキャラクターを用いた事業 【事例17】 | |
| 要因 : 対象年齢の好みの把握不十分 (自治体S) | ↔ | | |
| (3) 技術面に問題があった取り組みの例 | | | |
| 要因 : 技術上の問題 (自治体T) | ↔ | (1) エンジニアリング的なデータに基づいた取り組み 【事例1】、【事例5】 | |
| (4) 実施時期(気象条件)に問題があった取り組みの例 | | | |
| 要因 : 開催日の気象条件上の問題 (自治体U、V) | ↔ | - | |
| (5) その他 | | | |
| 要因 : 保護者への啓発不足 (自治体W) | ↔ | (3) 保護者や教師の意識向上にも焦点を当てた事業 【事例2】、【事例8】、【事例9】、【事例10】、【事例11】、【事例15】 | |

前頁の図表に整理できるとおり、地方自治体での子どもの交通安全確保策において、想定していた成果・効果が得られていない場合、「学校・家庭との連絡調整不足」や「地域の状況把握不十分」といった、計画（Plan）段階での準備不足が目立つ。また、子どもの交通安全確保策自体は多岐にわたっていても、その成果・効果を測定（Check）する機能が十分でないため、より効果的な施策への改善（Action）、次期計画（Plan）へのフィードバックが弱いようである。

したがって、今後の子どもの交通安全確保策を策定するに際しては、「計画（Plan）」と「効果測定（Check）」に力を入れていくことが望ましいと考えられる。

改めて、望ましい「子どもの交通安全画策」の立案・実施のサイクルや留意点を示すと以下のとおりとなる。

図表 - 3 望ましい「子どもの交通安全確保策」の姿（再掲）



このほか、好事例として取り上げた地方自治体の担当者からは、以下のヒントをご紹介頂いた。既に第5章の好事例紹介の中で言及されているが、子どもや地域住民の関心をひく「子どもの交通安全確保策」を立案する上での参考として頂きたい。

- ・交通安全対策事業の名前に「教室」を付けると人が集まりにくい。まずは、関心を持ってもらえるようイベントの名前を工夫することも重要である。
- ・交通安全単発のイベントよりも、防災や防犯のイベントとコラボレーションを取った方が人を呼べて効果的である。
- ・ジャニーズ事務所から無償使用の許可を得て「勇気 100%」をダンス曲に使用した創作

ダンス「交通安全ダンス」を演じている例のように、よく耳にする曲と交通安全教育を関連させることで、交通安全意識がフラッシュバックすることを狙っている。

- ・子どもたちの発達段階に応じた指導が重要である。中学生の心理特性や行動特性を考慮すると、生徒自身に主体になってもらう取り組みが好ましい。
- ・親自身が教える立場になると、より深く交通ルールを理解し、子どもに伝えようとする姿勢をつくることにつながる。
- ・住民からの要請が主観的になり勝ちであるので、客観データからも危険箇所を抽出することは有効である。

